

製品名: TAK1 (1307) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe18632**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:20-1:100,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50
分子量	67kDa

抗原情報

遺伝子名	MAP3K7
別名	MAP3K 7; MEKK7; Mitogen activated protein kinase kinase kinase 7; TAK1; TGF beta activated kinase 1; TGF1a;
遺伝子 ID	6885.0
SwissProt ID	O43318
免疫原	ヒト TAK1 の合成ペプチド

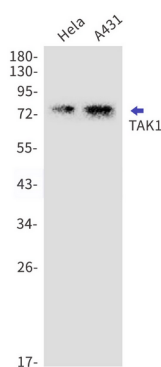
背景

タンパク質キナーゼシグナル伝達カスケードの構成要素。TRAF6 および TGF- β シグナル伝達のメディエーター。TRAF6 シグナル伝達に応答して IKKB および MAPK8 を活性化。NF- κ B 活性化および p38 MAPK 経路を刺激する。浸透圧ストレスシグナル伝達では、MAPK8/JNK の活性化に主要な役割を果たすが、NF- κ B の活性化には役割を果たさない。MAP キナーゼシグナル伝達経路の必須構成要素として機能するセリン/スレオニンキナーゼ。環境の変化によって引き起こされる細胞応答のカスケードにおいて重要な役割を果たす。TRAF6、インターロイキン-1 (IL-1) を含むさまざまなサイトカイン、形質転換成長因子 β (TGFB)、BMP2 および BMP4 などの TGFB 関連因子、Toll 様受容体 (TLR)、腫瘍壊死因子受容体 CD40、および B 細胞受容体 (BCR) のシグナル伝達を媒介する。セラミドは MAP3K7/TAK1 を活性化することもできます。活性化されると、MAP2K1/MEK1、MAP2K3/MKK3、MAP2K6/MKK6、MAP2K7/MKK7 といった複数の MAP キナーゼのリン酸化と活性化を介して、MKK/JNK シグナル伝達カスケードおよび p38 MAPK シグナル伝達カスケードの上流活性化因子として機能します。これらの MAP2K は、p38 MAPK、c-jun N 末端キナーゼ (JNK)、および I- κ B キナーゼ複合体 (IKK) を活性化します。p38 MAPK と JNK 経路はどちらも転写因子活性化タンパク質-1 (AP-1) を制御し、核因子 κ B は IKK によって活性化されます。MAP3K7 は TRAF6 シグナル伝達に応答して IKKB と MAPK8/JNK1 も活性化し、BMP2 誘導性アポトーシスを媒介します。浸透圧ストレスシグナル伝達において、MAPK8/JNK1 の活性化に主要な役割を果たすが、NF- κ B の活性化には関与しない。TRIM5 カプシド特異的制限活性を促進する。RIPK1 の「Ser-321」をリン酸化することで、RIPK1 と RIPK3 の相互作用を正に制御しネクロトーシスを促進する一方、RIPK1 キナーゼ活性および FADD との相互作用を負に制御しアポトーシスを媒介する (類似性による)。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



TAK1 抗体 (1:1000 希釈) を使用した HeLa A431 細胞溶解物中の TAK1 のウエスタンプロット検出。